

保井 志之 D.C.

早いもので、私が米国アイオワ州のパーマー・カイロプラクティック大学を卒業してからほぼ20年の歳月が過ぎました。

まずは、私になぜカイロプラクティックを志したのかという

(1) 手技療法探求への第一歩

経緯から紹介させて頂きま
す。私は今から30年前に明治
鍼灸短期大学（現・明治国際
医療大学）を卒業して、東京

の整骨院で勤務していまし
た。当時は私の周りでは、修
行して一人前になるのが当た
り前という風潮がありまし

よばれていた時代から開業さ
れ、私が住み込みをしていた
頃には、多い時には一日20
0人以上の患者さんが来院す
る評判のいい整骨院でした。
院長は治療院経営の傍ら専門
学校でも教鞭をとり、多くの
柔道整復師が集まる研究会の
会長でもありました。私は同

あるいは時間外に急患で来院
された急性外傷の患者さん達
の症例は強く印象に残ってい
ます。アメフトの選手が試合
中に手関節を脱臼し、ユニ
フォームのまま来院されたこ
ともありました。そのほかに
も、上腕骨骨折や肘内障の子
供がよく診療時間外に来院さ
れていました。

院長や先輩が鮮やかに治療
するのを目のあたりにして、
私はその整復術や芸術的な包
帯法に魅了されていました。
そして、その手技療法を究め
てみたいと願うようになりま
した。ここでの修業時代は私
の治療家としての原点となり
ました。一流の感覚や一流の
追究の大切さを肌で学び、私
の手技療法探求への第一歩が
始まりました。振り返ると厳
しい修業時代ではありましたが、治療の技術技能のみなら

た。私もその風潮に乗って、
所属していた短大柔道部の先
輩の勧めで、東京都内にある
整骨院に住み込み、修行しな
がら柔道整復師の専門学校で
の勉強を続けました。

期の書生や先輩方と共に整骨
院での勤務に加えて、研究会
や専門学校での教材作りのお
手伝いもさせて頂きました。
当時の整骨院は、本来の業
務である外傷による骨折、脱
臼、捻挫の患者さんが比較的
多く通院され、通院できない
外傷の患者さんには往診もし
ていました。特に日曜や祝日、

住み込んでしばらく経つ
と、院長が斯界では一流の先
生であることが分かってきま
した。院長は「ほねつぎ」と

保井志之D.C.



保井 志之（やすい ゆきのぶ）プロフィール

1962年福岡県生まれ。明治鍼灸短期大学（現・明治国際医療大学）卒業。大東医学技術専門学校卒業。米国アイオワ州のパーマー・カイロプラクティック大学卒業。2001年よりAMI社公認アクティベータ・メソッドセミナー開催。AMI社公認日本地区ディレクター。2005年より心身条件反射療法（ニューロパターンセラピー）研究会開催。2009年ICC国際コーチ連盟認定コーチ養成トレーナーとなりICC認定コーチ養成講座開催。著書に『体の不調は脳がつくり、脳が治す』がある。

ず人間形成にとっても大切な
ことを学ばせて頂きました。
（次号に続く）